

## 子宮体がん検査〔子宮内膜細胞診〕同意書

受診日

受診番号

子宮体がんの  
高リスク因子

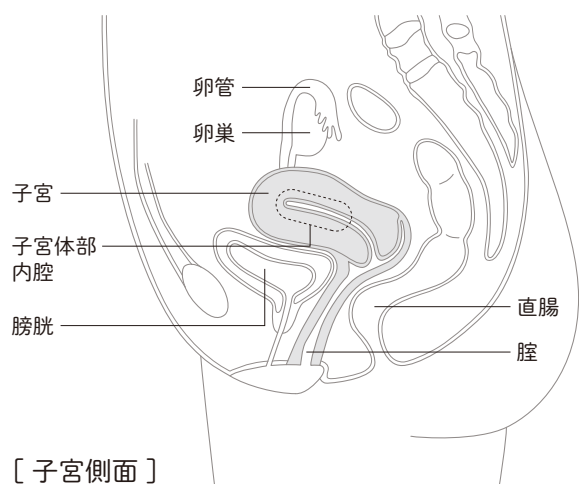
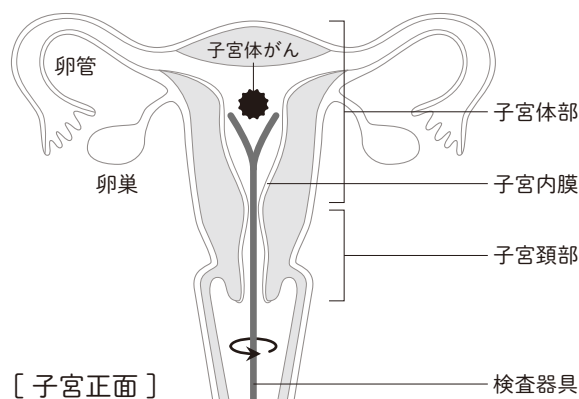
- 閉経後
- 不正出血
- 未経産または妊娠出産数が少ない
- 月経不順が続く
- エストロゲン（女性ホルモン）服用中
- 糖尿病・高血圧・肥満
- 乳がんの既往があり乳腺外科医師に検査をすすめられている

## 〔 検査方法 〕

内診時腔内を十分消毒した後、検査器具を子宮内に挿入し子宮内膜細胞を擦りとり、顕微鏡の検査に提出します。

## 〔 検査のリスクや合併症 〕

- 子宮内に器具を挿入する際に**痛み**や**出血**を伴います。まれに意識消失発作を起こす場合や、ごくまれに器具挿入時に子宮穿孔（子宮に穴があくこと）や他臓器（膀胱・腸管）損傷が起こることがあります。痛みや出血の程度により緊急受診が必要な場合があります。
- 子宮は卵管を通じて腹腔内とつながっている臓器です。そのため十分な消毒を行ってから検査をしますが、**感染**のリスクがあります。
- その他予期せぬ合併症が起こることがあります。
- 10%以上が偽陰性となるため、検査結果が陰性でも不正出血など自覚症状を認めた場合は受診が必要となります。



## 〔 検査をお受けいただけない方 〕

- 妊娠の可能性のある方（月経後10日目以降に性交渉のある方）
- 診察時の子宮・卵巣・卵管の所見で合併症リスクの高い方や、高次施設での施行が望ましいと判断された場合
- 免疫低下の可能性のある方（重い糖尿病、悪性腫瘍やその治療、ステロイド・免疫抑制剤内服中、人工透析中の方、その他体調が不良の方）
- 抗凝固療法中（血液をサラサラにする薬を内服中）の方
- 当センターでは産後6ヶ月以内、流産後3ヶ月以内、子宮の手術後1年以内の方

以上の検査に伴うリスク・合併症につき了承し検査に同意します。

年 月 日

署名